サポちゃん通信
自然が好き
生きものが好き
No. 4

目次

・私の耳は貝の殻　2-3
・本間記者のアフリカだより　4-5
・冬の蛾に会いたい！　6
・アカスジキンカメムシ　7
・夜のお客さん　8
・ミモザは秋にも花が？　9
・０円花壇の１年　10
・お宝ありませんか？　11
・クサカゲロウの同定　12
・ヤマボウシの怪　13
・鴻ノ峰林道や兄弟山林道沿いの春の昆虫　14
・鴻ノ峰林道や兄弟山林道沿いの初夏の昆虫　15
・コラム　サツマヒメカマキリ・表紙あとがき　16
表紙・イラスト　原まゆみ

私の耳は貝の殻

一昨年からのさぽちゃんみんなの地道な作業が遂にまとまりました。

それは「貝」。博物館に寄贈された親子 2 代にわたる膨大な貝のコレクションの整理、登録、そして展示です。

手作りの木の箱に整然と収められた貝たち。昭和 30 年代採取という半世紀以上の歴史があります。

それを１つ１つ取り出しては整理番号を付け、データ登録をし、科ごとに分類してもう一度確認していきます。最初はほぼ新品だった貝類図鑑は私たちの酷使でくたくたに…

そして、1 年以上かかって作業完了＼(^o^)／

と思ったところでなんと！テーマ展「寄贈された動物資料」に貝のコレクションも出品するので展示作品として見せられるようにしましょう！と、田中先生ニコニコとのたまうではありませんか！

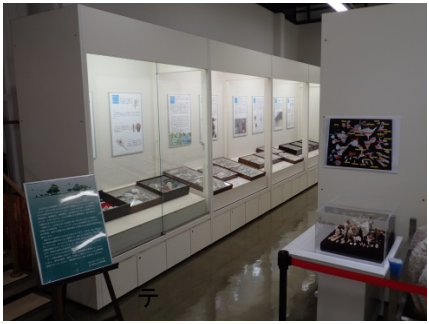
この時すでに会期前 2 か月。もう 1 度納めた貝をひっくり返して選別し、黒いフェルトを切って展示の容器から手作りし、グルーガンで貝を貼り付けていきます。再び始まった学園祭の準備状態的カオス…みんなもだんだんおかしくなってきましたよ(+_+)

「ホネガイを立たせようや！」グルーガン職人と化していた原さんの言葉に、やっちまいましょうとなった私たちはもう止められない！私の耳は貝の殻、先生の苦情は聞こえません。発泡スチロールの入れ物を加工して、針金を仕込んだ貝を何本も何本もぶすぶすと突き刺します。足元には、登録するときに見つけた見目麗しき貝たちを並べます。

そして…ええじゃ～ん(⋈◍＞◡＜◍)。✧♡　本来の海の中の景色とは全く違いますが、私たちの貝ワールドが出来上がりました。

テーマ展「寄贈された動物資料」は 2019 年 3 月 17 日まで開催中です。よかったら見に来てくださいね。（間田敬子）

テーマ展の貝類展示資料製作



テーマ展「寄贈された動物資料」のみんなで製作した貝類資料の展示

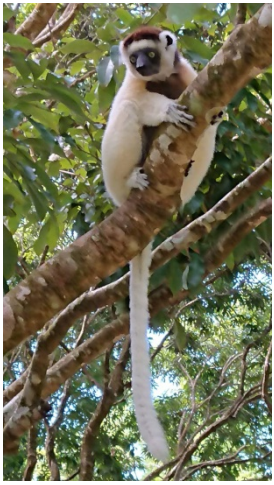
本間記者のアフリカだより

2018 年 12 月から船旅で南半球一周している、サポーター動物班の本間喜美恵さんより動植物の写真が届きました。

マダガスカル島

バオバブ

ワオキツネザル



ベローシファカ

南アフリカ

アフリカゾウ

シロサイ

ケープペンギンのコロニー

ケープペンギンの人工ねぐら

アフリカライオン

ウィルウィッチャー　和名（奇想天外）

冬の蛾に会いたい！

凍てつく寒い冬の夜。

こんな時期に蛾の採集なんて、何考えてんだ！と、家族から突っ込まれそうなので、こっそり家を出た。

実は、ライトトラップと比べると、うんと簡単な準備で蛾に会えるんですよ。

去年は糖蜜とコットンと押しピンを用意してクヌギ林に行き準備したっけ。明るいうちに糖蜜を染み込ませたコットンを林のあちこちに押しピン止めして、暗くなってから再度行くと、キリガの仲間がやってきてた。それとは別にフユシャクの仲間が林の中を飛んでいる。徳地の森で去年の 2 月に出会えたのは、ホシオビキリガ、キバラモクメキリガ、クロテンフユシャクの 3 種類。

今年は焼酎とカルピスとタオルを準備した。気温が例年より高めに推移してるので、違った種類にも会えそうだ。

糸米川砂防園や鴻の峰の周辺では、夜の間はイノシシ、アナグマ、タヌキなどが活発に活動している。さすがに昆虫採集を夜間している人は見かけない。

でも、蛾たちは人知れず凍てつく夜も飛び回って恋人探しをしているのだろう。

今夜はどんな種類にお目にかかれるのか、たのしみだな～。（吉本進）

アカスジキンカメムシ

コブシの実を吸う３齢・終齢幼虫

アカスジキンカメムシ終齢幼虫

初めて鴻ノ峰での生物採集観察会に参加した秋の日。他のサポーターの方からアカスジキンカメムシの幼虫を見せてもらいました。まるみのある茶色い背中に，白い模様がくっきりと浮かんでいます。よく磨かれた革靴のようにつやつやとしていて，私の持っているカメムシのイメージとは全く結びつきませんでした。成虫には金緑色と赤橙色の帯状の模様があるとのこと。模様のあるカメムシがいるなんて！

カメムシ。実は，25 年前ここ山口県に住むようになるまで，私はカメムシという名前さえ知りませんでした。初めて出会ったときは，黄緑色のきれいな虫だなあという印象を受けました。嫌なにおいを発するのであまり歓迎されないことや，セミもカメムシ目だということを知ったのは少し経ってからです。

サポーターになってから手に入れた図鑑でカメムシについて調べてみると，黄緑色のものばかりではなく，赤と黒の模様があるもの，黒っぽいもの，光沢があるものもいることがわかりました。また形も角張っているもの，まるいもの，細長いものなど様々です。名前はなかなか覚えられないのですが，見ていて飽きません。

大きくて長い虫とり網と三角缶に心も躍る採集観察会。山や水辺で自由に何時間も虫捕りなんて夢のよう。心（だけ）は少女に戻り，次はどんな虫に出会えるかなあと図鑑をみながら考えています。（村中明子）

夜のお客さん

庭に出てくるイノシシ

クリを食べるニホンアナグマ

「ブー。」

秋の夜のウッドデッキ。洗濯物を干していると暗闇から聞こえる鳴き声。イノシシって、ブタみたいに鳴くんだ！姿は見えませんが新たな発見にわくわくしました。イノシシはブタの仲間？いや、失礼、イノシシを家畜化したのがブタなのですね。

明るい時には出会えないイノシシことイノさんは、夜になると我が家に現れ、クリをほおばります。イチジクをかじります。カキも食べます。土をでこぼこに掘り上げて、ミミズを食べます。丈夫な鼻を使って、土を埋めて元のようにならしてくれると助かるのですが。

私は来ていますよと、広い範囲に派手な痕跡を残す存在感の大きな野生動物のイノさん。しかし、私は、一度ウリ坊を見たきり、成獣には日中に出会ったことがありません。それは、私にとっては幸せなことであり、できることなら、今後もイノさんは、今年の主役とはいえ、夜のお客さんでいてほしいものです。

最近、夜中の２時すぎ、外へ出たがる我が家の番猫は、遠巻きにお客さん見物をしているのかもしれませんね。（上田貴子）

ミモザは秋にも花が？

ミモザで羽化したキタキチョウ

3 月　ミモザの花が咲く

春、我が家の庭にミモザを植えました。ミモザは早春にたくさんの黄色い花が咲いてくれる大好きな植物です。夏を越して背丈が 2m程になった頃、葉が何かの幼虫に食べられるようになりました。

毎日観察していると、キタキチョウが産卵に訪れていました。

ミモザはマメ科の植物なんですね。よく観察すると葉っぱと間違えてしまいそうな蛹がたくさんついていました。羽化を楽しみにしていたところ 10 月中旬の早朝に蛹からキチョウが出てきました。翅が乾き飛び立つまで約 2～3 時間、まるでミモザの花が咲いているようでした。羽化は 11 月中旬まで続き、約 10 頭のキタキチョウが飛び立っていきました。厳しい冬を無事に越してミモザの花が咲くころにまた会いましょう。ミモザは早春ばかりでなく、秋にもたくさんの黄色い花を楽しませてくれています。（村上敬司）

０円花壇の１年

花壇に来た４頭のアサギマダラ

アサギマダラにマーキングし記録

あの酷暑にも負けず、花は元気に次々と咲きました。隣接する亀山公園の改修が行われていたので、毎日大型の作業車が行き交い排気ガスや熱風・騒音が心配でしたが、なんのその。虫達は花粉やおいしい蜜を求めてどこからか飛んで来てくれました。

花博会場のように広ければ容易に見つかるかもしれませんが、昨年まではなにもなかったここにこうして咲いているのが、なぜわかったのでしょうか？

10 月 17 日には初めての体験で、4 頭のアサギマダラにマーキングしました。その後発見の連絡は届いていないようですが、今頃はきっと南の暖かい所に辿り着きおいしい蜜を吸っている事でしょう。

花壇は大成功！と言いたいところですが、反省点も有りました。特に別館裏に植えた花は場所選びを失敗し、フジバカマはほぼ全滅でした。またカワラケツメイは発芽後しっかり囲っていなかったので、雑草と思われほとんど刈られてしまいました。しかし辛うじて残った２・３株が種を付けてくれたので大切に取って有ります。

今年は失敗しないように植え付け場所も考え、土作りの作業から始めようと思います。どんな新参者（虫）が遊びに来るのかな？

（山田恵美子）

お宝ありませんか？

ウミガメの仲間タイマイ

日本では小笠原諸島で産卵

実家の玄関には古ぼけたカメのはく製が掛けてありました。名前はかめ子。リフォームに伴い、新しい玄関にはかめ子を飾る場所がありません。母は私に、かめ子を博物館に持って行くよう言いました。

学芸員の田中先生にお話しすると快諾して下さいました。かめ子を見るなり先生が「タイマイですよ。べっ甲細工の原料になります。ほら、甲羅がうろこ状になっているでしょう？元々はすごく高価なものですが、今は絶滅種で取引は一切禁止されています。」と、言われました。

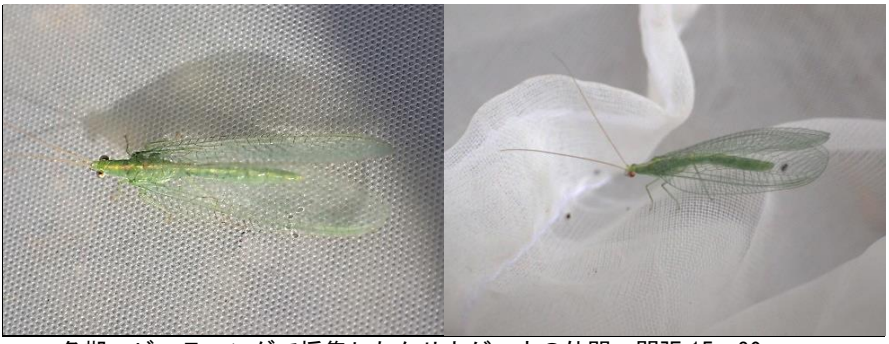
ひょえ～、知らなかった！いつも埃をかぶっていたかめ子がそんなに貴重なものだったなんて！捨てなくて良かった。虫食いにならなくて良かった。取引禁止？Ｙオークションとかしてなくてよかった！わたしの頭の中でいろいろな言葉が浮かんできました。

現在博物館では「寄贈された動物資料」展が開催されています。たくさんの標本仲間と一緒にかめ子も展示されています。白いプレートに説明も書かれています。

かめ子の価値を知ることができて幸運でした。これから先ずっと悪い虫が付くこと無く保存して頂けるなんて有難いことです。博物館はかめ子にとって最良の輿入れ先だったのです（かめ子はオスだと判明しましたが…)。

皆さんのお宅にもお宝眠っていませんか？ひょっとして実はとても価値のあるものかもしれませんよ！（藤田かおる）

クサカゲロウの同定



冬期　ビーティングで採集したクサカゲロウの仲間　開張 15～30 ㎜

冬に行うビーティングでは体長 20 ㎜以下の個体が多いが、クサカゲロウの成虫が落ちてくることもある。体長は 30 ㎜ほど。体は草色で翅は光を受けるとプリズムのように虹色に輝き、眼の形の愛らしさも印象的だ。卵は「ウドンゲの花」と呼ばれ 1 ㎝弱の細い糸状のものの先に、白く小さい卵がくっついていて風でゆらゆら揺れる。幼虫は「サポちゃん通信 2 号」で紹介のあった、自分の食べたエサの残骸を背負ったユニークなものだ。

どの形態も注目されるが、成虫の同定はとても難しい。外部形態からはまず頭部の斑紋があるか無いかで枝分かれ。さらに系統が分かれていき、前胸背の毛だの触覚基節の長さだのや人相もそれぞれ多彩である。いくら顕微鏡を覗いても混乱するばかりだ。作業は根気だけでなく先入観もない状態で行わないと迷宮に入り込んでしまう。そして昆虫ウォッチャー新参者はなかなか出口が見つからない。

クサカゲロウの幼虫はアブラムシを食べる益虫で成虫も肉食が多いようだ。成虫越冬するので、ビーティングで捕獲したときは、その美しさにドキッとしてうれしくなる。しかし後の同定のことを思うとやはりため息が出てしまうのだ。(岡田美子)

ヤマボウシの怪

ヤマボウシの花

ヤマボウシの果実

ヤマボウシは初夏に白い花（白い花弁上の部分は正確には総苞片と呼ばれる）が咲き、秋に親指の先端ほどの食べられる実がなる樹である。我が家では３ｍ程の高さの木が毎年たくさんの実をつけている。

昨年の１２月。すっかり葉を落としたヤマボウシの木を見ていると何となく違和感があった。よく見ると真ん中から下の方の枝が十カ所ほど奇妙に折れている。踏みつけられているように折れたものや折れるまでもなく単に曲がっているものもある。風で折れるような枝ではなく何ものかが折ったと考えられる。折れた枝には来年の花芽がついていることより秋以降に折られたものと思える。この庭にはいろんな動物が夜毎に跋扈しており、最も可能性があるのはヤマボウシの実を食べに来たアナグマであろうか。冬に備えて丸々と太った不器用そうな体形で枝を折りながら木に登って実を食べているアナグマの姿を想像すると何ともユーモラスである。

身の回りの小さなことに目を向けると意外なところに意外な痕跡が残っているのに気づかされる。秋の楽しみがまた増えた。（上田洋史）

兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの春の昆虫

イチゴハムシ　体長 4.5 ㎜　ギシギシやタデ類、イチゴ類の葉を食べる。日当たりのいいところあるギシギシの葉で、多数発見できる。

エサキモンキツノカメムシ　体長 11-13 ㎜　ハートのマークをもつカメムシとしてしられる。メスは卵を保護する。林道沿いの葉の上にいる。

アシブトハナアブ　体長 10-15 ㎜　胸の背側の 2 本の縦じまと後脚の腿節が太いのが特徴。花や葉の上にとまるので観察できる。

ヒメクロオトシブミ　体長 4-5 ㎜　バラ類やコナラなどの葉の裏などにいる。脚の色は黄褐色。葉を両側から切り揺籃をつくる。

オオシモフリコメツキ　体長 17-20 ㎜　林道沿いの植物上や、広葉樹林の葉上などにみられる。丹念に観察すると見つけることができる。

カワトンボ　全長 47-68 ㎜　渓流のながれにそった林道の林縁や、周辺の林の葉の上にとまっている。翅は透明、茶色、橙色、乳白色など変化に富む。

兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの初夏の昆虫

アカガネサルハムシ　体長 5.5-7.5 ㎜　金属光沢ある輝きをもつ。発見すると嬉しくなる。イタドリなどの葉の上で採食しているところを観察できる。

オオヤマカワゲラ　全長 20-25 ㎜　全身黒褐色で、前翅の縁の黄色が目立つ。渓流沿いの石の上や、林道沿いの植物の上にとまる。じっくり観察できる。

ヤマサナエ　全長 62-73 ㎜　渓流の付近の岩や林縁の葉の上にとまって静止することが多く観察しやすい。飛ぶのは速い。

ミスジミバエ　体長 10-12 ㎜　ハチ擬態のハエの仲間。林縁の植物の上にとまっていることが多い。刺さないので、そっと近づいて観察してほしい。

イチモンジチョウ　開張 45-55 ㎜　林道沿いの林縁で、樹木などの葉の上で翅を開いたり閉じたりしてとまる。数は少ないが毎年観察できる。

セマダラコガネ　体長 8-13 ㎜　花や葉の上でよく見つかる。数も多く、目立つ所にいるので、しっかり観察できるコガネムシの仲間。

コラム　サツマヒメカマキリ

冬を越したサツマヒメカマキリ　原さんは日々小さな虫たちを採集しエサとし、小さなカマキリの越冬に成功しました。

5 月ついに羽化！成虫の誕生です。見つかってから約 5 か月。日々幼虫の大きさにあわせたエサ探しは大変でした。

1 月、翅のない小さなカマキリが見つかりました。ヒナカマキリに似ていますが、よく調べてみるとヒメカマキリの幼虫でした。この時期に幼虫、ビックリです。幼虫で越冬？調べてみると、サツマヒメカマキリは幼虫で越冬することがわかり、サポーター随一の飼育ニスト原さんが育てることに！

主な参考文献
日本の昆虫 1400①・②（2013）槐真史他著　伊丹市昆虫館監修（文一総合出版）
イモムシハンドブック①～③（2014）安田守著（文一総合出版）

表紙あとがき

バランスが大切！2 月に突然　顔の右側が動かなくなってちょっとへこんでおりました。半分が動かなくなると日頃なにげなくやっていた事ができないのを痛感しました。右が動かないと左のホッペがふくらまないって知っていました？ただ今リハビリ中で～す！！

（原まゆみ）

山口博物館サポーター動物班活動報告　“サポちゃん通信”No.4
発行　2019 年 3 月 14 日
編集　山口県立山口博物館サポーター動物班
発行　山口県立山口博物館　〒753-0073 山口市春日町 8-2
Tel 083-922-0294　Fax 083-922-0353

※この通信は山口博物館ホームページ→サポーター制度及び Yamaguchi ebooks →博物館 を検索で 1 号からご覧いただけます。